

2024 年度 北海道地区懇話会 活動報告

北海道地区懇話会では 2024 年度（2024 年 1 月～12 月）の間に 2 つの企画を開催しました。以下にそれぞれを報告します。

（１）北海道大学子ども発達臨床研究センター 発達支援フォーラム 2024spring「“架け橋期”ってナンだろう？」の開催

2024 年 3 月 17 日（日）に、子ども発達臨床研究センターおよび日本発達心理学会北海道地区懇話会の共催で、掲題のフォーラムが北海道大学学術交流会館大会議室にて開催されました。

第 1 部は「理論編」、第 2 部は「実践編」として、合わせて 5 名の登壇者から話題提起を受けた上で、フロアを交えた討議を行いました。80 名強の参加者を得て活発な議論が交わされました。登壇者と講演タイトルは下記の通りです（敬称略）。

第 1 部 理論編

- ・岡花祈一郎（琉球大学）「子どもの声」から接続を考える」
- ・及川智博（名寄市立大学）「架け橋」を必要としているのは誰か？—実践をめぐるまなざしが自由であるために—」

第 2 部 実践編

- ・丸谷雄輔（札幌ゆたか幼稚園）「幼児教育の立場から」
- ・三好賢太郎（香川大学教育学部附属高松小学校）「小学校の立場から」
- ・高橋真由美（藤女子大学）「養成校の立場から」

（２）オンラインシンポジウム「いまヴィゴツキーをなぜ読むのか」の開催

2024 年 12 月 21 日（土）に、北海道地区懇話会主催で、掲題のシンポジウムがオンラインで開催されました。

ヴィゴツキーの理論的研究に関する最近の動向について、3 名の登壇者から話題提供いただきました。指定討論を受けて全体で議論が交わされました。最大で 70 名を超える方が参加しました。登壇者と講演タイトルは下記の通りです（敬称略）。

- ・佐藤公治「ヴィゴツキーの三つの「時間」（系統発生・文化＝歴史的变化・個体発生）を考える—「重層的発達論」あるいは「人間心理の歴史性」—」
- ・伊藤美和子「ヴィゴツキー心理学の胎動期— 苦悩の克服と方法—」
- ・神谷栄司「ヴィゴツキー（1896-1934）をどのように読む（研究する）のか— 1 縦への連関と横への連関、2 「知と情」の統一的把握、3 使用言語、そして、わたし自身の反省—」
- ・指定討論 加藤弘通